

夢の解き明かし（世界帝国の展望）

岩本友則

人は、睡眠中に夢を見ます。どれだけの人が意味のある夢を見たことあるでしょうか？私は、無意味な夢しか見たことがありません。

1998年7月3日バビロンの遺跡を、見ながら約2600年前の昔ネブカデネザル王の見た夢に思いを馳せるのです。

王の不倫 国の分裂

ユダヤの偉大な王ダビデ、そして知恵者として有名なソロモン王によって栄華を誇った王国（紀元前10-9世紀）は、ダビデ王の不倫のため、南王国ユダと北王国イスラエルに分裂します。分裂後、約200年で滅んだ北王国イスラエルに対し、南王国ユダは、更に150年継続します。

しかし、南王国ユダも残念ながら、バビロニア帝国によって滅ぼされてしまいます。そして、終末の南王国ユダの王に大きな悲劇が襲う事になります。

右の写真は、宮殿に続くバビロンの道で、当時（約2600年前）のままです。

この道を、バビロンに降伏した南王国ユダの王エホヤキムは足かせをされ、また、最後の王ゼデキヤは、両目をえぐり出され足かせをされてこの道を歩いたのです。そして、夢の解き明かしをするダニエルもこの道を歩いてバビロンに連れてこられたのです。

ダニエルについて紹介しましょう。紀元前606年ネブカデネザル王は、エルサレムを攻略しました。この時、ユダヤの王族、貴族の中から高度な知能テスト及び厳格な身体検査を実施し、それに合格した優秀な少年達を、捕虜としてバビロンに連れてこさせました。その少年達は、ダニエル、ハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤでした。

ダニエルは、夢の解き明かしにより地位と名誉を得るのですが、学者たちの妬みを受け彼らの計略に陥れられます。ある時は、火の燃える炉の中に投げ込まれ、また、ある時は、ライオンのおりの中に投げ込まれます。しかし、神のご加護により焼け焦げることもライオンに食われることもなく守られたのです。

ネブカデネザル王の夢

ある夜、王は夢を見て、そのまま目を覚ましてしまいます。旧約聖書のダニエル書2章の記述から見ていきましょう「・・・ネブカデネザルは、幾つかの夢を見、そのために心が



騒ぎ、眠れなかった。そこで王は、呪法師、呪文師、呪術者、カルデヤ人を呼び寄せて、王のためにその夢を解き明かすように命じた。彼らが来て王の前に立つと、王は彼らに言った。「私は夢を見たが、その夢を解きたくて私の心は騒いでいる。」

駆けつけた知者達は、言うのです。「王よ。永遠に生きられますように。どうぞその夢をしもべたちにお話してください。そうすれば、私たちはその解き明かしをいたしましょう。」

しかし、王はどんな夢を見たのか話しません。それどころか、「私の言うことにまちがいはない。もし、あなたがたがその夢とその解き明かしとを私に知らせることができなければ、あなたがたの手足を切り離させ、あなたがたの家を滅ぼしてごみの山とさせる。」

他人が見た夢を分かる人がいるのでしょうか？なんと横暴な王でしょうか、しかし、王の立場に立って考えるならば、文献によれば当時の知者、**呪法師、呪文師、呪術者、カルデヤ人達は**、手厚く保護され優遇されていました。私が、想像するに、王は誰が本物なのか？誰を信じればよいのか確かめたかったのではないのでしょうか？本物の知者ならば、自分の見た夢を語らなくても解き明かす。もし、夢を語れば、いい加減な気休めの解釈を述べると考えたのではないのでしょうか？

高い報酬で優遇してきた知者達が、何も出来ない・・・本当の正体が露見したとき、王は、全ての知者を滅ぼし尽くせとの命令を下したのです。知者リストにダニエル達も入っていました。逮捕されようとした時、事の次第を知ったダニエルは、王の所に出向きしばらくの猶予を願うのです。そして、家に帰りハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤ達と心を合わせて神に祈るのです。神は、彼の祈りに答え、王のみた夢、そして夢の意味をダニエルに示されたのです。

王の前に立ったダニエルは、王がどんな夢を見たのか説明します。聖書は以下のように記しています。「王が求められる秘密は、知者、呪文師、呪法師、星占いも王に示すことはできません。しかし、天に秘密をあらわすひとりの神がおられ、この方が終わりの日に起こることをネブカデネザル王に示されたのです。あなたの夢と、寝床であなたの頭に浮かんだ幻はこれです。

王さま。あなたは寝床で、この後、何が起こるのかと思い巡らされましたが、秘密をあらわされる方が、後に起こることをあなたにお示しになったのです。この秘密が私にあらわされたのは、ほかのどの人よりも私に知恵があるからではなく、その解き明かしが王に知らされることによって、あなたの心の思いをあなたがお知りになるためです。

王さま。あなたは一つの大きな像をご覧になりました。見よ。その像は巨大で、その輝きは常ならず、それがあなたの前に立っていました。その姿は恐ろしいものでした。その像は、頭は純金、胸と両腕とは銀、腹とももとは青銅、すねは鉄、足は一部が鉄、一部が粘土でした。あなたが見ておられるうちに、一つの石が人手によらずに切り出され、その像の鉄と粘土の足を打ち、これを打ち砕きました。

そのとき、鉄も粘土も青銅も銀も金もみな共に砕けて、夏の麦打ち場のもみがらのようになり、風がそれを吹き払って、あとかたもなくなりました。そして、その像を打った石は大きな山となって全土に満ちました。」（ネブカデネザルの夢想像画参照）

ダニエルの解き明かし、王の夢は世界帝国の展望

ダニエルは、更に、王の見た夢とその解き明かしを語ります。解き明かしについて聖書は「・・・人の子ら、野の獣、空の鳥がどこに住んでいても、これをことごとく治めるようにあなたの手に与えられました。あなたはあの金の頭です。

あなたの後に、あなたより劣るもう一つの国が起こります。次に青銅の第三の国が起こって、全土を治めるようになります。第四の国は鉄のように強い国です。鉄はすべてのものを打ち砕いて粉々にするからです。その国は鉄が打ち砕くように、先の国々を粉々に打ち砕いてしまいます。

あなたをご覧になった足と足の指は、その一部が陶器師の粘土、一部が鉄でしたが、それは分裂した国のことです。その国には鉄の強さがあるでしょうが、あなたをご覧になったように、その鉄はどろどろの粘土と混じり合っているのです。その足の指が一部は鉄、一部は粘土であったように、その国は一部は強く、一部はもろいでしょう。

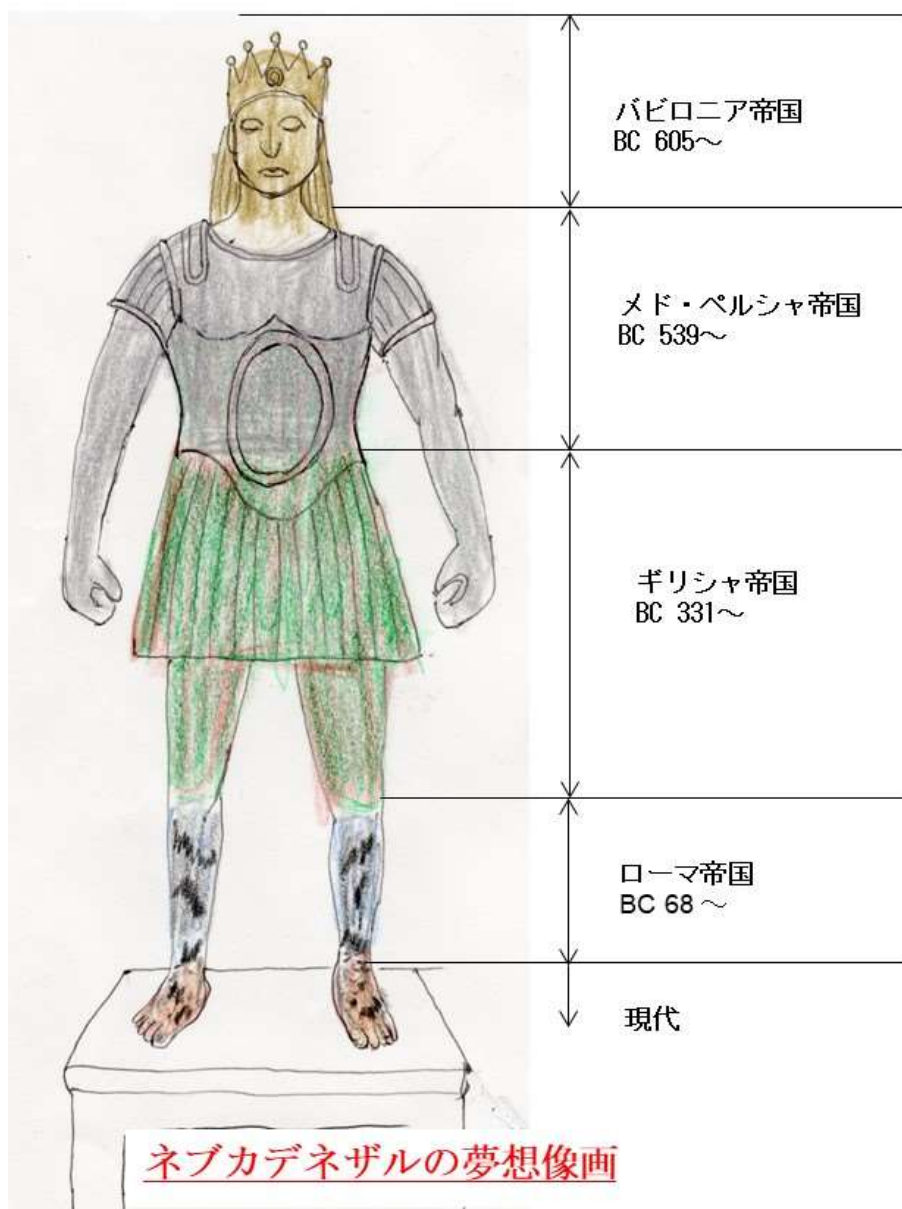
鉄とどろどろの粘土が混じり合っているのをあなたをご覧になったように、それらは人間の種によって、互いに混じり合うでしょう。しかし鉄が粘土と混じり合わないように、それらが互いに団結することはありません。この王たちの時代に、天の神は一つの国を起こされます。その国は永遠に滅ぼされることなく、その国は他の民に渡されず、かえってこれらの国々をことごとく打ち砕いて、絶滅してしまいます。しかし、この国は永遠に立ち続けます。

あなたをご覧になったとおり、一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と青銅と粘土と銀と金を打ち砕いたのは、大いなる神が、これから後に起こることを王に知らされたのです。その夢は正夢で、その解き明かしも確かです。」

ダニエルの解き明かしを聞いた王は、「・・・ネブカデネザル王はひれ伏してダニエルに礼をし、彼に、穀物のささげ物となだめのかおりとをささげるように命じた。」

ダニエルの夢の解き明かしを歴史から評価しましょう。純金と称されたネブカデネザルのバビロニア帝国は、BC539年に銀と称されたメド・ペルシャ帝国によって滅ぼされます。メド・ペルシャは、BC331年に青銅と称されたアレキサンダーのギリシャによって滅ぼされ、ギリシャは、BC68年に鉄の国と称されたローマ帝国に滅ぼされ、その後、帝国と呼ばれる強大な国は出現せず現代に至っています。夢は世界帝国の展望の預言だったのです。

また、ダニエル自身も夢を見ます。ダニエル書7章に記されていて、獣の夢です。それは、バビロンがライオンで、メド・ペルシャが熊、ギリシャがヒョウで、第4の獣は、「おそろしく、ものすごく、非常に強くて、大きな鉄のきばを持っており」と記されています。それは、ローマ帝国でしょうか？



ダニエルの預言は非常に精度良く的中しすぎるとの理由からダニエルによって書かれたのではなく、後生の人間によって書かれたと主張する学者も多くいるのです。最大の根拠として、ダニエル書8章には、「メディアとペルシャの王」・・・「毛深い雄ヤギはギリシャの王」と記されている点です。ダニエルの生涯から見て、メディアとペルシャは、予見出来るが、200年後の国名（ギリシャ）まで当てることは、不可能との主張です。しかし、聖書のイザヤ書44章28節には、「私はクロスに向かって・・・」と言う預言から約170年後に、実際にペルシャの王としてクロス王が登場します。聖書は、国のみならず人の名前まで預言しているではありませんか！

続く